

■ エッセンスの使い方

必要なエッセンスを選ぶ

- ・リーフレットの指標や各種資料などを読み、現在の自分に合っているものを選びます。
- ・花写真を見ながら直感で選ぶこともできます。
- ・複数のエッセンスを一度に選ぶ際には、5種類ほどを目安にするとよいでしょう。

エッセンスを使用する

- ・ボトルから直接口中に2回スプレーする。
- ・コップ半分程度の水に各エッセンスを2回スプレーし、少量ずつ飲む。
- ・20～30mlのスプイトピンをミネラルウォーターと少量のアルコールで満たし、エッセンスを各2回スプレー（トリートメントボトル）。これを1日4回以上、1回4滴を飲む。

■ 商品情報

品目: スピリッツ

容量: 10ml/ガラス容器 (スプレータイプ)

アルコール分: 19%

日本産原材料使用

各 ¥1,400 (税別)

※この商品はお酒です。20歳以上の年齢であることを確認できない場合には、酒類を販売いたしません。

ファー・イースト・フラワー・エッセンス、FE²は、ホメオパシージャパン株式会社の登録商標です。



日本の霊峰・富士山が
目の前に広がる
伊豆半島を
中心として、
日本の各地に
自生する植物や、
日本人の
文化に深く根付いた
日本らしい植物から、
ファー・イースト・
フラワー・エッセンスは
作られています。



ホメオパシージャパン株式会社

〒413-0002 静岡県熱海市伊豆山1170-17
tel 0557-86-3070 (代表) fax 0557-86-3071
URL <http://www.homoeopathy.co.jp/>
e-mail office@homoeopathy.co.jp



ファー・イースト・ フラワー・エッセンス

— 日本の花のフラワーエッセンス —



Copyright © 2015-2016 Homoeopathy Japan Co. All rights reserved.
無断複写・無断転用禁止 2015.12



Homoeopathy Japan Co.

自然体で生きる人々をサポートする
ホメオパシージャパンのレメディーとマザーチンクチャー

日本の花のフラワーエッセンス

豊かな自然に恵まれた日本。その風土は日本人の独特な文化や風習、感性、人格を育んできました。同時に、日本の風土は数多くの植物をも育んできました。日本にはおよそ7000種の植物が自生し、その約4割が日本固有種であるといわれています。

フラワーエッセンスは人間の心を癒す、植物からの贈り物です。それは植物の生命力がもっともよくあらわれる、花から作られます。美しい花を見て、心安らぎ、慰められる人は多いでしょう。ましてや、同じ風土のもとで育まれた日本の花であれば、私たち日本人の繊細な心に、深く響くものがあるはずです。

日本の花たちは、日本人の役に立ちたいと願いつつ、私たちに寄り添うようにして、共にこの地に生きているのではないのでしょうか。

花たちの願いを叶えてあげたい。

花の癒しの力を人々に届けたい。

日本人のための、日本の花のフラワーエッセンス。それがファー・イースト・フラワー・エッセンスです。

日本人の根深い心の問題を解決する花が、必ず日本のどこかに咲いているはず。

そう信じて、日夜、研究を続けています。

◆エッセンス一覧 (2015年12月現在)

ウメ

Prunus mume

バラ科サクラ属



古くから日本人に愛され、万葉集にも多く詠まれる。2~4月に開花。清らかな花、高貴な香り、品のある姿。高次の世界への誘い。独り静かな空間。瞑想。

オオシマザクラ

Prunus speciosa

バラ科サクラ属



伊豆諸島や、伊豆半島や房総半島に多く生育する。白い5弁花を咲かせる。薄く繊細、儚くも散りやすい花。葛藤と平安。彼岸への憧憬。日本人の精神。

キンモクセイ

Osmanthus fragrans var. *aurantiacus*

モクセイ科モクセイ属



中国南部原産。江戸時代に渡来。秋にオレンジ色の花が開花。強い香りを放つ。光、明るさ、あたたかさ。未来への希望。

ヒガンバナ

Lycoris radiata

ヒガンバナ科ヒガンバナ属



日本全国に分布。畦や土手、墓地などに多い。秋に地中から花茎だけが出て、赤色の花が咲く。死にまつわる異名が多い。否定的な感情。抑圧。怒り。

ヒサカキ

Eurya japonica

モッコク科ヒサカキ属



常緑小高木。本州以南に分布。3~4月に開花。サカキが自生しない東日本では神棚や仏壇に供えたり、神事に用いられる。祓い。浄め。

ママコノシリヌグイ

Persicaria senticososa

タデ科イヌタデ属



東アジア原産。つる性の枝や葉に多数の刺。ピンク色の小さな花を少しずつ開く。名前は継母が刺のある葉で継子の尻を拭くの意。虐待。心を開かない。支えが必要。